

日 時 令和2年1月30日(木)  
午後2時 ~ 午後4時  
場 所 志摩市役所4階 401会議室

### 出席者(順不同・敬称略)

(1) 審議会委員(17名)

齋藤平(会長)、松井源紀(副会長)、関戸透、西尾新、柴原信義、山川範恭、宮本道則、前田正典、向井英仁、亀井かつ子、濱口真理子、森田和樹、谷利子、三橋まゆみ、大倉沙江、林花奈、晝川紗代子

(2) 事務局(4名)澤村博也、東桂一、米奥宏規、下村晴紀

傍聴者...6名

### 事項書1. あいさつ

#### 【竹内市長】

本日は第1回総合計画審議会ということで、大変お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。また、平素は市政推進のために様々な分野でご活躍いただいていることに関しまして、この場をお借りし御礼申し上げます。

今年はいよいよ東京オリンピック、パラリンピックの開催の年ということで、スペインを相手国とするホストタウンに志摩市が登録されております。このオリンピックチームの事前キャンプを通じて、トライアスロンやスポーツの振興のみならず食文化等も含め、未永い交流を目指していきます。このことについては、鈴木知事はじめ三重県庁やスペイン大使も来ていただいて、よろしくお祈りしますという言葉が頂戴したところです。今回の審議会委員の中では海女の三橋委員が聖火ランナーとして選ばれたということですが、志摩市といえば海女文化ですので、市を代表してがんばっていただきたいと思っております。

総合計画については、志摩市にとって、まちづくりの大事な指針となっているということで、合併以来第2次の計画を策定し、この計画に沿ったまちづくりを進めているところです。この第2次総合計画の後期基本計画を皆さんにご審議いただき、また、市民の皆様にもパブリックコメントやアンケートを通じてご意見をいただき、みんなで計画のための計画ではなく、総合計画を策定していきたいと考えております。少子高齢化や様々な課題が散在しているところですが、私は知恵を出し合い、力を出し合えば活路はあると考えておりますので、活発なご意見を頂けるよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 【事務局】

ありがとうございました。これより、竹内市長より委嘱状を委員の皆様にお渡しします。

[市長より委嘱状を委員へ交付]

出席いただいた委員の紹介を、資料1の名簿の配布により代えさせていただくことを説明。

委員19名中16(1名が途中から出席)名の出席により、会議が成立していることを報告。(志摩

市総合計画審議会条例第5条第3項)

それでは早速ですが、議事に入りたいと思います。

## **事項書2．議事(1)会長・副会長の選出について**

### **【事務局】**

[会長の選出について、立候補・推薦を求める]  
[意見なしのため、事務局案として齋藤平委員を推薦]  
[複数委員から(異議なし)との声あり]  
[齋藤委員を会長として選出]  
[竹内市長より諮問]  
公務の都合により竹内市長退席

志摩市総合計画審議会条例第5条第2項に基づき、議事進行を齋藤会長へ依頼

### **【齋藤会長】**

会長に選任いただき、とりまとめ役をさせていただきます皇學館大学の齋藤と申します。よろしくお願ひします。

それでは、議事の1番、副会長の選任についていかがいたしましょう。

[意見なし]

事務局の方で案があればお願ひします。

### **【事務局】**

[志摩市自治会連合会松井員を推薦]  
[(異議なし)との声あり]

### **【松井副会長】**

副会長に選任いただきました、志摩市自治会連合会の松井と申します。総合計画ということで、志摩市をより良くしていくために、皆様方の忌憚のない意見を頂きたい。

## **事項書2．議事(2)策定方針及び策定作業の状況について**

## **事項書2．議事(3)今後の策定スケジュールについて**

### **【齋藤会長】**

事項書(2)策定方針及び策定作業の状況についてと(3)今後の策定スケジュールについては関連性があると思いますので、続けて説明をお願いしたい。

### **《総合計画について》**

#### **[事務局説明]**

参考資料として、第2次志摩市総合計画前期基本計画概要版を使用し説明

《資料3》第2次志摩市総合計画・後期基本計画の策定体制》

《資料4》第2次志摩市総合計画・後期基本計画策定方針》

《資料5》第2次志摩市総合計画・後期基本計画の策定スケジュール》

《資料6》総合計画策定に係る市民ワークショップ・ヒアリングについて》

## [事務局説明]

現在策定中である、第2期志摩市創生総合戦略を紹介。

### 【齋藤会長】

事務局より概要とスケジュールについて、ご説明いただいた。それぞれの専門的な立場や市民としての立場があると思う。総合計画とは、志摩市が行政を進めていく中で、取り組みの方針が決められ、記載されているものとなっている。それぞれ数値目標等もたて、基本構想にもとづいた取り組みが記載されている。10年間の期間で総合計画を進めていくが、いったん5年間で見直しを図り、次の5年間に向けより良い計画の実現のためにはどうすれば良いかということを図ることが、この審議会の役割となる。委員それぞれの関心のある分野あるいは専門的な分野について、ご発言いただければと思っている。

数値目標については、成果指標という資料がある。本冊を見てもらうと、施策の成果指標・目標数値の設定という欄があり、目標値を平成32年(令和2年)平成37年(令和7年)に置いている。現在は平成30年までの数値が出てきており、達成している項目、達成できていない項目に分かれている。容易に達成できそうでできない項目や、藻場の再生面積のように目標値を高く設定したが達成が容易であるものなどがある。日頃、市民の皆様に関わるような項目もあることから、市民としての目線も持ちつつ、意見をいただきたい。

現在アンケートを集計中ということですが、どの自治体も若者の回答が少ないという傾向がある。このことから、高校生ヒアリングは非常に有効かと思う。是非ここで、若年層からの意見を多く取り入れてもらい、アンケートでの不足部分を補っていただきたい。

本審議会については、次回は次期計画の課題と基本構想の方向、3回目は素案について審議し、4回目は素案を整え、最後に答申という運びで計画されている。来年度も含め、5回程度の予定となっている。

本日は具体的なことについてご発言いただくことは難しいと思うが、志摩市の次の5年に向けて、志摩市がどのようなまちになるといいかということをご希望も含め、一言ずつ委員からいただきたい。

関戸委員さんはPTAからの選出ということで、子どもたちの未来やどのようなまちが実現できるかということなど一言お願いします。

### 【関戸委員】

まず今の現状として、少子化の勢いに歯止めがきかず、伝統的に行ってきた行事が維持できないなどの課題がある。また、数少ない子どもが大きくなった時に住み続けてもらうことができるのかという課題も現実に起きているので、少子化問題と人口流出問題の解消に向けた取り組みをしてほしいと思う。

### 【西尾委員】

観光関係は雇用の関係や観光客の災害の関係など、幅広く関係があります。数値目標ではインバウンドの関係で5万人から5万5千人で推移しているが、数で評価するということもあるけれど、質的な問題もある。数字に表れないところも計画に盛り入れていただければと思う。

### 【柴原委員】

まちづくりの満足度・必要度のグラフを見て思うのが、やはり雇用が無い。雇用がないから、医

療もできない、若者が外へ出ていく、子どもも自然と少なくなる。志摩市は第1次産業が盛んであった。衰退していった今は働く場所がない。第1次産業が重要。第1次産業があって、観光業があると考えている。

#### 【山川委員】

的矢湾の養殖業がここ数年不作であり、環境を良くするために数年前からの的矢湾漁場管理計画で定点観測等を毎月行っている。しかし、データをとっているだけで次に何をするかという点ではなにも行われていない。その点をやっていかないと、どんどん漁業者が減っていく。

藻場の再生面積はどこか地区が増えているのか教えていただきたい。

#### 【事務局】

平成29年度から水産課で藻場再生の取り組みを行っている。船越、甲賀、波切で取り組みを行っているという中で、実施している対象の面積の数値である。実際に再生しているかどうかは確認する必要がある。

#### 【宮本委員】

南海トラフの対策ということがよく言われている。消防の詰所や機材等を高台へ上げてほしい。企業との協力を充実したい。

#### 【前田委員】

地域福祉でも防災が1番の課題となっており、地域からの要望もある。

また、産業構造も変化しているので、どう対応していくかということが大事かなと思っている。

子どもを産みたくても、伊勢まで連れて行かないといけない。産婦人科もいつまでたってもできない。

若者が大学卒業後、志摩市へ帰ってこないということから、若者に魅力を感じさせるまちにしていけないといけない。都会へ出ていけると、勉強ができないということはいた仕方ない。志摩の魅力とはなにかとは再確認、再発見することをPRし、移住の促進や空き家対策を行って少しでも人口を増やしていく形が良いと考えている。

#### 【向井委員】

農業振興を担わせてもらっている。ご存知のとおり、担い手不足、耕作放棄地、獣害対策等課題を抱えている。各地区に応じた農業の振興策があると思っている。志摩市に応じた農業の振興で、力になればと思っている。

#### 【亀井委員】

畑をつくりたくても荒らすイノシシがいるため、退治してほしい。

#### 【濱口委員】

志摩市において、観光客だけでなく働く人も外国人が増えていくと考えている。本業は真珠養殖と福祉であり、働く場がないというが、かなりの人手不足感を感じている事業者もいる。そのミスマッチの調整に取り組んでいただければと思う。

これからワークショップを行うということで、多くの市民の方に来てもらえるようにしていきたい。

【森田委員】

子育てというのは、女性も男性も働きやすい職場、お金などのことがネックになる。防災に関しては、近年、台風等があたりまえになってきているので、そのようなことを前提としてまちづくりを進めていってほしい。

【谷委員】

高齢化などもあり、何年も先を考えると若者の働く場が少ないと思う。各地区で田んぼをつくっているが、高齢化してきているという課題がある。自宅の近くの田んぼでは、市外から会社のような形態で田んぼをつくってくれているという事例がある。

【三橋委員】

志摩を良いところとっていて、PRなどを行っているが、自分の思いと観光がなかなか一体化されていないと感じる。もう少し力を入れてくれたら、もっと様々なPRができると思う。

温暖化の影響で地元の海の中が荒れていて、漁獲量も減っている。海女の人数も減っているが、海女として仕事をしながら子育てをするということを、若い人から認められるようにしていきたい。海女が、子育てをするにはとても良い仕事であるということをPRしたい。仕事をしつつ、自分の時間もできる良い仕事だと思う。

【大倉委員】

地元である三重県への定着ということは、三重大学としても課題である。来年度から、インターンシップの卒業要件化を行う。県内の企業やNPOで働き、三重県で働くということを学生に考えてもらいたい。学生と話した感触だと、わりと三重県のことをすごく好きだという印象がある。住みやすいであるとか名古屋などの遠くへ行くよりも地元に残りたいという学生が多いように感じる。その一方、三重県の北勢地区出身の学生はなんとなく三重県のことを知っていても、具体的に三重県のどこで働き、どこで働くかということは考えられていないと感じる。

女性問題や障がい者問題などを専門としており、この審議会ではいろんな人が住みやすいまちという観点から話ができればと考えている。

【林委員】

大学進学を機に、市外へ出て行って帰ってこないということがあつたとの話があつた。私は大学へ進学する際に市外に出て行き、12年間過ごした後に帰ってきた。帰ってきた印象として、昔よりは賑やかさがなくなったなと感じた。その12年間の間は大阪、東京、フランスにも住んでおり、市外に住んでいた経験を活かして意見が出せればと思っている。

2年前に脱OLをして建築業界に入った。このことから、志摩市の空き家問題等にも意見が出せればと思っている。

【晝川委員】

生まれは伊勢ですが、嫁いで志摩市に住んでみると、生きた民俗資料の宝庫ということを知った

ことがあるが、本当に言葉に残したいようなおばあちゃん方の話もいっぱいあると感じる。現在の子どもたちが遊ぶのはゲーム、出かけるのは大型ショッピングモールやゲームセンターなどへ行く。こんなに山や海があるのに、もったいないと感じる。自分の子どもには志摩が染みこんだような子どもに育ててほしい。大きくなった時に、どこにいても志摩をどこかに感じる生き方をするような大人になってほしい。

子どもが小学校にあがると、教育委員会の先生方などがサポートしてくれる。志摩市にも0歳から3歳までの小さい子どもを育てている、市外から来たお母さんがたくさんいる。昔だったら、おじいさんやおばあさんが子どもをみてくれて、充実した子育て環境だったと思うのだが、核家族でアパートで1人で子育てをしているお母さんは孤独感を感じている方もいることから、もっと笑って子育てができる場ができないかなと感じています。

#### 【松井副会長】

自治会というのは地域コミュニティの中で重要な役割を果たさなくてはいけない。現在は高齢化に伴い、各地区の自治会の会員が減っているという状況である。地区にもよるが、市から委託された会報などを配布する役目の班長という立場がある。「来年は班長にあたる年だから、自治会を抜ける」という方が多くなっている。あと5年後には消滅してしまうかもしれない自治会もある。

この間、まちの中で軽トラ市を行ったところ、おばあさん方が300人近く集まり、出展いただいた多くの店が売り切れになった。その点も含め、お年寄りには自分の目で見て商品を選びたいんだろなと感じた。今後は3月から月1回やろうということで、若い人ががんばってくれている。

インバウンドや観光客については、観光客は志摩市へ来ているが座ってコーヒーを飲むところがないよねという意見がある。空き家などを安くで借り、有志の方へ貸し出して、お茶にあられを入れたものなどを提供できればお客さんも田舎の良さなんかも見ただけなのかなと。

農地を市が買い取るなどもできるのであればいい。きんこ芋などは次の日に収穫しようと思っていれば、その日の夜にはイノシシに全部食べられるということが起こっている。ある程度の畑を市で買いとって、高齢者に一畝でいくらというように貸出をすれば、高齢者同士のコミュニケーションも生まれる。高齢者は1人で家の中でテレビをみているという現状もあるが、軽トラ市のようになにかあると外へ出てくる。

#### 【西尾委員】

雇用の問題であるが、志摩市には若い人達が望んでいる仕事が無いということでミスマッチングが起きている。仕事が無いわけではない。観光業は第1次産業がないと成り立たないが、世界の潮流を考えると、フェイスブックやアマゾンなどが国を超えて世界を動かしているという時代で、国もそれに合わせて動いているという状況になっている。

中国なんかはABCD+5Gという戦略を出している。AというのはAI。志摩の市民病院と観光協会でも観光しながら、健康診断を受けてもらうというふるさと納税の提案をしている。例えば、病院で市民が検査を受けて結果を世界的にも有名な病院へ送付し、診断を行い、地元で治療できるものは治療し、できないような症状であれば、その他の病院を紹介するということできれば市民の為になるのでは。Bというのはブロックチェーンで、仮想通貨の様なもの。これがあれば口座が作れ、窓口の業務が削減できる。ある銀行では、窓口を縮小しているところもある。Cというのはクラウド。Dというのは、デジタル通貨。このように戦略的に計画づくりをしていく必要がある。AIなんかは、東京でなくてもこの地域で開発できる。このようなことも計画に盛り込んでいただければ。

**【齋藤会長】**

総合計画や総合戦略の中の人口ビジョンでは、市民の方がいきいきと生活できるという内容が書かれている。Society5.0という未来技術を使って、どこにいても同じだけのサービスが受けられるという時代もそこまで来ている。年末に楽天さんがドローンを使って間崎島に物資を届けるという実験を始めたが、全国的に見ても非常に先進的な実験ということで注目されている。SDGsという視点を含め持続可能性を高めるという点から、太陽光パネルの設置などの件についても、志摩市ならではの感性で計画づくりをしていただければ。ぜひ次回以降、さまざまな観点から意見をいただきたい。

その他、事務局からなにかありますか。

**【事務局】**

[次回の開催日について連絡]

**【齋藤会長】**

今回は、次期計画の課題と基本構想の方向についてご審議いただきたい。

本日はありがとうございました。